

非行・自傷・依存の体験から考える わたしたちの健康

わたしたちにとって、「健康」であるとはどのような意味を持つことなのでしょう。

社会のひとりひとりが「健康」に生きることができる——それが重要な意味を持つことはわかってはいるけれど、それはどのような形で実現できるものなのでしょう。

「健康」とは、個人的なものなのでしょう。それとも、社会が個人の「健康」に関わっているのでしょうか。

講演会では、渡邊洋次郎さんにお話を伺いつつ、他の参加者とのディスカッションも通じて、「わたしたちの健康」について考えていくことを目指します。

2021年12月16日（木） 8:50-10:20

この講演は「市民社会と健康」の講義中で実施します。該当URLからZOOMにアクセスしてください。津田塾大学の在学生・教員の方なら、受講生以外の聴講も歓迎します。

また後日録画を学内公開します。学生・教職員は、「オンライン授業時間割」のサイトから視聴することが可能です。

【講師】 渡邊 洋次郎 氏

中学の頃に薬物中毒になり、在学中に何度か警察に捕まり、中学卒業後、すぐに、鑑別所入所。4度の鑑別所入所を経て、16歳の終わりから18歳になるまでの1年間を中等長期少年院で過ごす。

20歳から精神科病院への入退院が始まり、30歳までの10年間で計48回の精神科病院入院。30歳から3年間の刑務所服役。現在、刑務所を出て、酒や薬が止まり、12年8ヶ月。

自助グループのミーティングへ行ったり、就労支援なんかを受け、リカバリハウスいちごで、4年前から正社員として働き、去年の3月に通信制高校を卒業。

3年前に介護福祉士受験も、無事に合格。著書に『下手くそやけどなんとか生きてるねん。薬物・アルコール依存症からのリカバリ』（現代書館, 2019年）

